

九中図書館だより

文京区立第九中学校図書館

令和3年11月 第7号

学校図書館支援員 蛭田康寿子



『最後の頁を閉じた 違う私があった』これは、2021年度75回読書週間の標語です。

読書週間は、1947(昭和22)年に出版社・取次会社・書店・公共図書館・マスコミ機関が合同で、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもとに開催したイベントです。この読書週間のマークには、フクロウが描かれています。フクロウはギリシャ神話で

学問・技芸・知恵の象徴の女神アテナの使者とされていることから採用されたそうです。九中図書館でも、下記の通り読書月間を行います。図書館に来て、技芸や知恵を取り入れられる本を探してみませんか？



九中読書月間

期間 11/15(月) ~ 12/3(金)

- ・図書館と給食のコラボ「お話給食」
- ・貸出1回につき1回「図書館みくじ」
- ・しおり付き「覆面図書」
- ・特典アリ!「スタンプカード」

期間中、いろいろな企画があります！

どうぞ来てみてください。



九中図書館利用案内

開館日	月曜日 ~ 金曜日
開館時間	昼休み 13:00 ~ 13:20 放課後 学活終了後 ~ 16:30
貸出冊数	通常2冊 読書期間中は3冊
貸出期間	2週間

支援員在室曜日は

月・火・木・金

在室時間は

11:30 ~ 16:30

※行事や授業によって

変更になることがあります

今月のオススメ本



『作家の猫』

コロナ・ブックス編集部編 平凡社【910 冊】

『吾輩は猫である』を書いた夏目漱石は、あまり猫好きではなかったけれど、それでも猫のおかげでデビューを飾れました。猫好きな人もそうでない人も、作家の知られざるエピソードに触れることのできる1冊です。



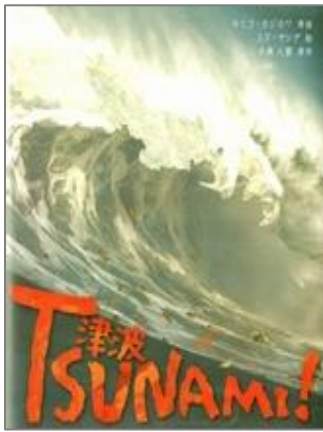
文京ゆかりの文人



読書月間イベント開催中の九中図書館では、廊下に「夏目漱石特集掲示」、館内入口に「文京ゆかりの文人展示」を設けてあります。

「文豪」と呼ばれる明治や大正の小説は、文語体で書かれているので、一見読み辛く思われますが、読むのに慣れてしまうと「え？こんなに面白かったの？」と気付けるはずです。

この機会にぜひ読んでみてください。



『津波 TSUNAMI!』
小泉八雲原作
グランママ社【93ハ】

海辺の小さな村を襲った災害を、絵本ならではの迫力で魅せます。

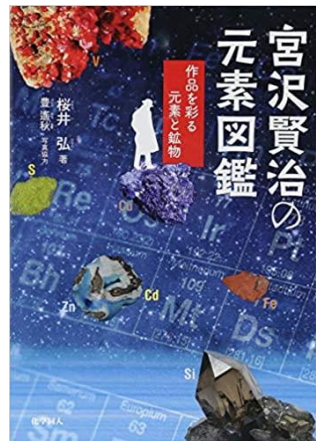


『東京の「坂」と文学』原征男著
彩流社【910ハ】

文豪の作品に登場する「坂」を作品と共に紹介。家の近くの「坂」が実は!?

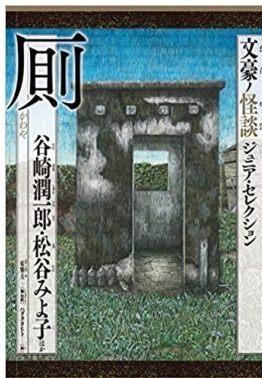
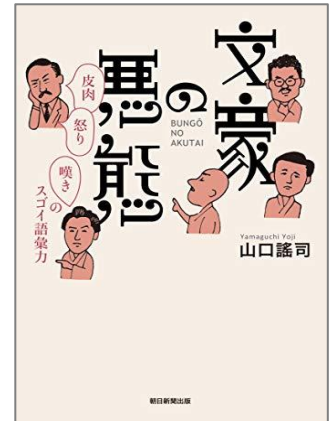
『宮沢賢治の元素図鑑』桜井弘著
科学同人【43サ】

宮沢賢治の童話に出てくる元素や鉱物をカラー写真を交えて解説。



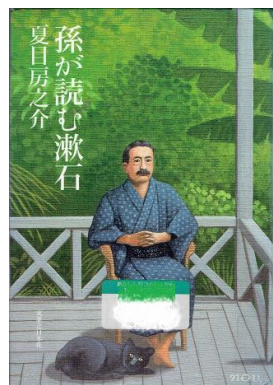
『文豪の悪態』山口謠司著【910ヤ】
朝日新聞出版社

文豪なのに悪口が俗なのがなんとも言えず新鮮です。



『文豪ノ怪談 廁』
谷崎潤一郎他著
汐文社【913フ】

学校の怪談と言えぱトイレ。古い文体が怖さを倍増してます。



『孫が読む漱石』
夏目房之介著【289ナ】
実業之日本社

明治の文豪・漱石の孫である作者が、漱石の作品を読み解きます。